

報告年月日 2013年9月11日

「グローバル安全学トップリーダー養成プログラム 活動報告書」

「岩沼市避難訓練調査」

報告者 磯崎 匡(文学研究科 M2)

ジョン イジョウ(工学研究科 M1)

1. カテゴリー

学生自主活動

2. 活動日時、場所

2013年9月1日(日) 10:00-11:30

場所

宮城県岩沼市

3. 企画者(複数可、代表者には◎を記載)

災害科学国際研究所

4. 参加者

磯崎 匡(文学研究科M2)、ジョン イジョウ(工学研究科M1)

引率者

Suppasri Anawat(災害科学国際研究所准教授)、久利 美和(災害科学国際研究所講師)

杉安 和也(災害科学国際研究所助教)、安倍 祥(災害科学国際研究所助手)

5. 活動目的

東日本大震災で津波被害にあった宮城県岩沼市では、地震とそれによる津波発生を想定した避難訓練を昨年から行っている。岩沼市の避難訓練で特徴的なことは、小中学校や市民会館だけでなく、近隣にあるバイパスや川の堤防の上も避難場所として指定されている点にある。本活動では、岩沼市でのこの避難訓練の様子を観察することで、避難時における住民の行動や行政の対応に関する問題点や課題を明らかにする。そして、その問題点や課題を行政に対して報告・意見交換することで、今後の地域防災計画に役立てることが本活動の目的である。

6. 活動概要

本活動では平成25年9月1日午前10時00分、宮城県沖を震源とする強い地震が発生するのを想定して、

この地震により、宮城県の沿岸部全域に津波警報が発表する。それから、岩沼市沿岸域には45分後に津波到達予定があることで、磯崎と鄭はが岩沼市津波避難訓練の観察を行った。具体的には小中学校、市民会館、バイパス、東部道路非常階段、阿武隈川堤防などに分かれて避難している住民の避難行動や行政の対応を観察した。私たちが、そのなかで特に沿岸近くの小学校で観察を行った。そこから、行政が校内の避難場所を全体に共有しておらず、校舎最上階に誘導すべきところを体育館に誘導していたことが問題点として明らかになった。また、住民の避難に関して、ペットを連れて避難してきた住民がいたが事前にそのようなケースを想定しておらず、対応に時間を要したことも課題として明らかになった。以上のような問題点や課題について、訓練後市役所において他の箇所を観察していた人と意見交換をした上で、行政の担当者に対して報告を行った。

7. 特記事項・添付資料など

任意